



喜多塾

終戦後の梅田

今月十五日で大東亜戦争(第二次世界大戦)の終戦から七十年になります。

この戦争では当宮をはじめ、氏子地域である梅田一帯は焼け野原となり、戦後はまさに焦土の中からの復興でした。

当時お住まいだった方の話によれば、梅田から大阪城が見えたらしく、いかに大阪市内が破壊の限りを尽くされたかが分かります。

終戦からしばらくすると、海外からの引揚兵も町に戻って来るようになりましたが、同時に深刻な食糧難となります。そこで、現在の大阪駅前ビルが建っているあたりに大きな闇市が立ち、食料を求める人で溢れていたようですが、やはり不法占拠であった事と治安悪化で問題も多くなりました。

その頃当宮では引揚げ兵の方の受付所を設けていたようで、一面焼け野原となっていたので、どのあたりに誰その家があったというのを確認するのも四苦八苦したようです。そんな混乱の中でしたので、悪さをする人も多く、土地の問題も色々発生しました。

これら戦争の爪痕も、梅田の復興発展とともに徐々に消え、現在、当宮の氏地で戦前から残っている建物は当宮末社の齒神社社殿だけとなり、戦争遺跡と呼べるものも、当宮御本社の本殿前の狛犬ぐらいになりました。

今の二十歳以下の子供の多くは、親も、祖父も戦争を知らず、戦争記憶の風化が大きな課題です。先人の御霊の安らかなる事を祈り、戦争の悲惨さを忘れずにいたいものです。

桂佐ん吉さん落語会

今月の八月十四日(金)の午後七時(開場午後六時三十分)から、茶屋町の御旅社で桂佐ん吉さんの落語会があります。(有料:五百円から)

- ・一回目 午後七時から
- ・二回目 午後七時三十分から
- ・三回目 午後八時から

詳細は、さかいひろこ works まで

TEL 〇六一六一五五 一五五六一

氏地案内「南扇町」

当宮は氏地として旧北野村である、北野連合振興町会、梅田東連合振興町会、万歳町、西天満六丁目、中崎西二丁目一部、曾根崎一丁目一部の氏神さまとして鎮座いたしております。氏地案内の四回目は当宮御本社の東南に位置します南扇町についてです。

町名の由来は、現在の市道大阪駅前線(扇町通)と天神橋筋との交差点の位置にあった扇橋の南側に位置しているのが由来と思われます。

この町内にはかつて大きな榎(エノキ)の大木があり、そこに吉兵衛という老狸が住んでいたという伝説があります。この狸は非常に陽気な事が大好きで、特に地車雑子(だんじりばやし)を好み、夏から秋にかけて夜な夜なチキチンコンコンとお雑子を奏でて町の人を驚かせていたようですが、そんな狸の悪戯を可愛く親しむを感じていた人々は天保十年に榎木神社を建立し、榎木の御神霊とともに狸も神使として祀ったそうです。(明治時代になって、榎木神社は町の南にある堀川戎神社に合祀されました)現在、南扇町には西沢学園が運営する関西テレビ電気専門学校、北税務署などの既存施設の他、結婚式場のアイネスヴィラノッツェ大阪、そして来月には同じく結婚式場のル・センティフォーリア大阪が開業予定で、南扇町は今も昔も陽気のあふれる町ともいえそうです。

神社携帯サイトのQRコード

ドコモ、ソフトバンク、au、モバイルPC 対応



編著 網敷天神社 禰宜(神主)

白江 秀 知

